

What?

Why?



所長 山本の

ワイズリレーインタビュー

第63回 有限会社 桜木家具店 常務取締役 高橋 勇樹さんに聞きました！

人、技術、地域。それぞれにある「つなぎ」を大切にする、新しくも変わらない桜木印の岩谷堂筆筒

Q 業務内容を教えてください。

岩谷堂筆筒の製造、販売をしています。江刺と大船渡に小売の店舗があり、一般家具やカーテン、カーペット、内装、インテリア雑貨等々を取り扱っています。私は小売の方をメインに仕事をしています。お家のインテリアコーディネートもし、取り付け設置まで行っています。

Q 創業のきっかけと会社の歴史を教えてください。

創業のきっかけは、とてもいい「杢(モク)」すなわち材料が入ったことで、昭和15年に、祖父が桜木木工所をはじめました。後の昭和29年、現上皇陛下様に筆筒を献上する機会をいただき、そして昭和40年に先代の父が有限会社桜木家具店に改組しました。

岩谷堂筆筒の起源は平安時代、藤原清衡が治めていた頃に奥州市の江刺、豊田城で1100年頃に始まったとあります。当時は筆筒ではなく、大型の箱のようなものだったのではないかと文献には書かれています。江戸時代に南部藩だった岩谷堂の城主が経済発展のために作ったのが始まりとも言われています。

続いてきた岩谷堂筆筒は昭和30年代頃に製造元がなくなってしまうのですが、先代がまた作り始め、東京のデパートなどに出向き、販売をし、需要が高まってきたことがきっかけで、江刺でまた地場工芸の岩谷堂筆筒を作ろうとなりました。

先代は革新的な人で、昔の工法で作ると納期がかかっていたところを、現代風にアレンジをし量産できるようにしました。いろいろなアイデアマンで、岩谷堂筆筒音頭を作ったりもしたそうです。

Q 会社を引き継ぐ経緯を教えてください。

本家は江刺で私は陸前高田の出身ですが、親族会社のため子供の頃から私が引き継ぐことは決まっていた。それが嫌で、本当は貿易会社を目指したかったです。ただ大学で人生観が変わり、インテリアが好きだったこともあり、受け継がれる仕事を素敵だと思うようになりました。そこから地域の方々と親しくなることが楽しく、一緒に地域を盛り上げていくこともしてきました。その結び付きがあったからこそ震災の時も生きていたと思います。



英語が好きで、忘れないようにスマホの言語表記を英語にしているという高橋さん。



Q どのような商品を取り扱っていますか？

岩谷堂筆筒をはじめ、家の建具や仏壇も製造しています。若い職人さんたちの発案で、色をそれぞれ変えた小引き出し付きの筆筒も新しい商品としてあります。

オーダーメイドの時は、ご自宅の写真にイメージを合成するような提案もしています。お客様は次の世代に残していきたいという方が多く、その分こだわりもあり、打ち合わせをしていく中で、だんだんと親しくなり、いろいろな要望に応えながら作っていくのが楽しくもあります。

また、古い筆筒の修復も引き受けており、明治時代に作られた岩谷堂筆筒を職人さんが直したり、震災で流失してしまった筆筒なども直しています。

小売では、一般の家具であるソファ、ベッド、食器棚など住まいのものを扱っています。お客様の方に出向いてご提案などもします。

Q 他社と違うセールスポイントを教えてください。

職人がいる家具屋さんとして、既製品にないものを作ることが強みだと思います。また、家具の色からカーテンのコーディネートまで、といったようにトータルでの内装の提案もできることも強みです。

職人は7人いて、若い方がいるので平均年齢は40ほどです。また、地元の方でも、小学生の頃に社会科見学などでも来ていただけているので、職人になりたいという方も少なからずいると思います。

Q 社名の由来を教えてください。

祖父の生家である住所が、「字桜の木」という地名

Monthly
Person



有限会社 桜木家具店

常務取締役

高橋 勇樹（たかはし・ゆうき）

1977年10月20日、陸前高田市生まれ。人がつなぐ、様々な出会いを大切にしています。自然が大好きで、休日は、夏はお庭の草取り、土いじりをし、冬はストーブの巻き割りをしています。ビートルズの音楽は、何時聴いても新鮮で、特に「アビーロード」は、世界最高傑作だと思います。

磨き抜かれた伝統技法をつなぐ家具づくりを大切にしてきた、桜木家具店の岩谷堂筆筒。家の中で、暮らしを整えていく存在感があります。



軍見洞農園 代表 佐々木 輝昭さんからのご紹介



でした。そこに工場を建てたので、桜木家具となりました。

Q 仕事の魅力は何ですか？

お客様と密接に関われることです。私自身、人と会ったり話すことが大好きなので、人と繋がるとそこから新しい繋がりがどんどん生まれていく。それが広がっていき、人生が豊かになると思います。震災後は更にそれを実感しました。

震災の時は店が流され、しばらくは商売ができなくなりました。その矢先、翌月に長くお付き合いのあるお客様から電話があり、そこから次々と注文をいただきました。沿岸のお店は無いので、カタログを持ってトラックで毎日回っていました。カタログのみでも注文をいただけたのは、先代が築いてきた、人と技術の信頼があったからこそと思います。2013年に仮設店舗ができ、その年の11月に大船渡のお店も再建しました。

Q 自分なりの勉強方法はありますか？

経営者の方の話を聞くことです。また、スキマ時間で日経の記事などをチェックしてメモをとっています。そして、そういったメモをまとめていくことも大切にしています。それを日々忘れないように触れることが大事だと思います。

また、英語が好きなこともあり、日々あるわけではありませんが、仕事などでも問い合わせが来た時に対応しています。当社の岩谷堂筆筒を世界に輸出したい気持ちもあり、中国での販売や、5年前にオーストラリアの友人のお店にも届けました。今後は、英語のHPも作ってきたいです。ただ、日本とは気候が違うのでそれも大きな課題です。

Q 会社としての目標はありますか？

岩谷堂の技術、歴史を絶やさないようにしていくこと。技術を磨き続けること。そして、現在の職人が持つ独自の技術が後に伝統技術と呼ばれるようになることです。また、店舗の方も地域の方に大切にされるようなお店作りをしていきたいと思います。

Q 個人としての目標はありますか？

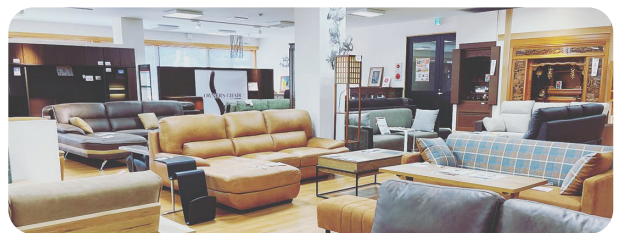
人生の中で英語に出会えたことが大きな転換でした。きっかけはビートルズです。その好きなメンバーたちの故郷であるイギリスのバッキンガム宮殿に岩谷堂筆筒を納めることが、夢であり目標です。

Q 仕事をする上で大切にしていることは何ですか？

震災の時に学んだことですが、従業員さんあつての会社、技術あつての仕事、地域あつての商売、この3つがとても大事で、どれか1つかけてはやっていけないということです。そして、できることを増やしていくことが大事だと思います。

Q 好きな芸能人を教えてください。

宇多田ヒカルさんです。留学の時に、日本に戻って来ると友人が教えてくれました。その時の印象が強く、光っているところが好きです。



有限会社 桜木家具店（大船渡店）

📍 大船渡市大船渡町笹崎14-6

☎ 0192-25-1177

営業時間 * 9:00~18:00 定休日 * 火曜

江刺八日町本店

📍 奥州市江刺八日町1丁目5-119

☎ 0197-35-1171

営業時間 * 9:00~18:00 定休日 * 火曜

高田店ショールーム

📍 陸前高田市米崎町字和方100-7

☎ 0192-55-2455

営業時間 * 9:00~18:00 予約制